

令和 2 年度

実践報告書

岩倉市日本語適応指導教室

各校の取組

学校名

南部中学校

実践日時

令和２年４月１３日

実践名

休校中教員自主研修 ポルトガル語・ブラジル文化講座

1 対象

南部中学校職員 約３０名

2 実践内容

〈目的〉

本市の学校に通う、ブラジルにルーツのある子どもたちへの理解を深める。普段は日本の学校に適応しながら過ごしている子どもたちだが、彼らの母語を学ぶことで、他言語で生活することの難しさや、生活環境の違いを知り、学校での支援に活かす。

〈内容〉

- ・ 学校で使うポルトガル語
- ・ ポルトガル語のアルファベット
- ・ ブラジルにルーツがある生徒の名前の由来
- ・ 簡単なポルトガル語会話
- ・ ブラジル食文化紹介

3 成果（感想）

〈参加者感想〉

- ・ ポルトガル語を勉強していくと、普段ブラジル人生徒が英語の授業で使っているアルファベットの書き方や、発音の癖が、母国に由来するものであることが分かった。
- ・ カタカナの名字をもつ生徒の名前が、日本の名字から派生して、生まれていることが分かった。長い年月をかけて変形したと思うが、歴史の深いところで繋がっている感覚になった。
- ・ 生徒の背景にある文化を知ることができ、日本の学校生活では見られない一面を垣間見ることができた。生徒理解に活かしたい。
- ・ 日本の常識と海外の常識が異なることを改めて確認する機会になった。学校でも生徒や保護者に対して一方的な支援にならないように気をつけたい。
- ・ 多言語を学ぶ生徒には尊敬する。語学力を活かして、将来活躍してほしい。

（記録写真）



学校名

南部中学校

実践日時

令和2年5月21日

実践名

休校中教員自主研修 アフリカ異文化理解

1 対象

南部中学校職員 約15名

2 実践内容

〈目的〉

日本からはるか遠い国について知ること、違いに寛容になる態度を磨く。また、メディアを通してもつイメージだけではなく、現地で実際に暮らした人が話す肌感覚の体験を聞くことで、多面的な視野をもつ。青年海外協力隊の情報を提供する。

〈内容〉

- ・ 青年/シニア海外協力隊のなり方
- ・ アフリカでの感染予防対策
- ・ ライオンキングが面白くなる豆知識

3 成果（感想）

〈参加者感想〉

- ・ アフリカという遠い国だが、身近な映画や最近話題の感染症の話を通して、私たちの日常に落とし込まれていたのも、とても興味深かった。
- ・ 全く知らない国について身近に感じ、理解を深めるきっかけになったので、学校での国際理解教育に活かしていきたい。
- ・ 海外ボランティアといっても、様々な国や職種を選ぶことができ、自分でも活動できる可能性があることを知れて良かった。

〈発表者感想〉

アフリカは、日本から物理的にも遠く、メディアに映る情報も限られている。したがって、日本人がアフリカにもつイメージは一面的になることが多い。未知の国に対して、抵抗感を減らし、親近感をもって文化を受け入れることができるか、切り口を工夫した。また当日は、職員のご家族も参加したが、子どもから大人まで興味をもてる内容になったのではないかなと思う。

岩倉市は、外国にルーツをもつ人々が暮らしている割合が高い。しかし、どの国に対しても、異文化に接するときの姿勢は変わらない。この研修を通して、参加者の方々が、改めて違いに寛容になり、様々な視点から国を理解する態度を確認することができたら良いと思う。

（記録写真）



学校名

五条川小学校

実践日時

令和2年6月1日

実践名

給食対応について(イスラム教 ハラル食)

1 対象

1年1組, 2組の児童

2 実践内容

1年に1名イスラム教徒の児童が入学した。給食は、宗教上、肉はハラル食品しか食べられないため、弁当を持参したり食べられないものを除去したりしなければならない。それについて、パワーポイントによるスライドを用いて1年の児童に分かりやすく説明した。給食の時も、弁当をじろじろ見ないことやわがままで除去しているのではないことを理解してほしいとお願いした。また、その児童が食べられないものには、×がしてある献立表を配り掲示してもらうことも話した。

3 成果と感想

○ 成果

- ・ 在籍教室の児童達にとっては、イスラム教に関する話は初めてで、真剣に聞いてくれた。
- ・ 給食が始まると、周りの児童が給食のおかずを見て食べられないものを本人に教えてくれたり、配膳のとき気を配ってくれたりしている。
- ・ 除去しなければならないものがあるときは、担任が他のおかずを多めにするなどの配慮をしている。
- ・ 担任は、除去するものをその児童用の献立表を見ながら除去する食べ物に気を配ってくれている。

○ 児童の感想

- ・ メニューをチェックして食べるのはたいへんだと思った。
- ・ ぼくたちも、ちゃんと見てあげる。
- ・ 宗教で食べられるものが違うことがわかった。

(記録写真)



令和２年度 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 実践報告（４）			
学校名	南部中学校	実践日時	令和２年６月２２日（月） １５：００～１６：００
実践名	外国人生徒向け進路学習会		
１ 対象 南部中学校３年生 １４名 担当者：藤川（３年生付き）、長屋（進路指導主事）、加藤（日本語教室室長） ２ 実践内容 １．進路指導主事からのお話（長屋） ２．進路について説明（藤川） ① 上級学校について ② 受験（受検）制度について ③ 費用について ④ 今後の予定（３月まで）について ３．進路決定について考える 質疑応答 （藤川、長屋） ３ 成果（感想） 南部中学校では、３年生と保護者を対象に、学年全体での「進路説明会」を例年５月に実施してきた。外国にルーツをもつ生徒と保護者に対しては、説明会には通訳を配置し、参加を促してきた。加えて、説明会終了後に「外国人向け 進路説明会」を開催してきた。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。外国ルーツをもつ生徒と保護者の背景を踏まえて、保護者の来校は不可能でも、生徒を対象に進路についての勉強会を実施することで、中学校卒業後からの将来について考える機会を増やしたいと考え、本勉強会を開催した。 外国にルーツをもつ生徒にとっては、進路選択は容易なことではない。それは、外国人の生活背景によるところが大きいが、生徒たち自身のみならず保護者が日本の上級学校を含む進学先や情報を得る方法についての知識が乏しいことに起因することも否定できない。生徒と保護者にはより丁寧で細かい説明と支援が必要であると考えている。 当日は、６月の時点で就職を希望する３年生１名を除き、３年生全員が参加した（特別支援学級在籍の２名を含む）。校長、教頭、教務主任もオブザーバーとして参加した。進路指導主事が具体的に高校について生徒の質問に応答するなど、日本語教室としてはたいへんありがたい機会となった。 生徒たちからは、高校の種類（私立・公立、全日制・定時制、普通科・総合学科・工業系など）を見据えこれからのことについて多くの質問があった。高校進学のために今後の学校生活や授業参加について、また、どのような準備が必要かについても、生徒同士で考える場面が見られた。 （記録写真）			
 			

令和２年度 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 実践報告（５）			
学校名	岩倉中学校	実践日時	令和２年６月２９日
実践名	外国人向け進路説明会		

1 対象

岩倉中学校外国人保護者５名

2 実践内容

（１）進路説明

①日本の教育制度について

②上級学校の種類について

③受験制度について

④授業料など学費について

（２）卒業生からのビデオメッセージ

3 成果（感想）

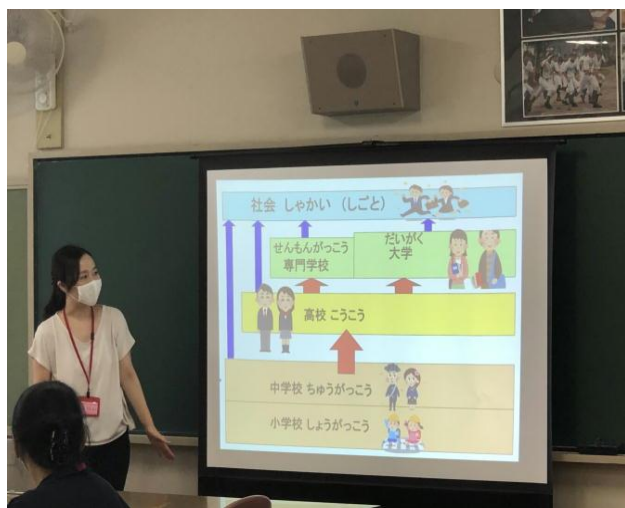
毎年、学校行事として進路説明会が開催される同日に、外国人保護者を対象に進路についての基礎的な事項を理解してもらうために「外国人向け進路説明会」を行っている。

通訳の方に母国語で説明をしてもらい、日本の高校進学について知らないことが多い保護者の方にとって、不安を取り除いてもらういい機会になっていると感じている。

実際に保護者の方からも、「どのような試験を受ければいいのか理解することができた」、「高校進学のための費用について具体的にイメージできた」といった感想があった。

1学期の進路説明会以降、家庭で本格的に保護者と生徒が進路について話し合いをしていくことになるため、この機会に通訳の方を交えて保護者の方の小さな不安まで聞き出せることは、生徒にとってもいい影響があると感じた。

（記録写真）



学校名

五条川小学校

実践日時

令和2年7月7日

実践名

七夕（日本文化体験）

1 対象

日本語教室取り出し指導児童 16名

2 実践内容

毎年、七夕給食をやっているが、今年はコロナでふれあい給食ができないため、各々の活動となった。1年生には、取り出し指導の時に七夕の紙芝居を読んで聞かせた後、ひらがなの練習も兼ね短冊に願いを書いた。放課を利用して、短冊を書いたり、飾りを作り笹に飾ったりした。七夕当日、保護者には母語で、七夕の由来を書き、持ち帰る七夕に貼り付けた。それぞれが、短冊に願い事を書いて日本文化を味わった。

3 成果と感想

○ 成果

- 子どもたちの短冊を見ると、家庭の様子や子供の精神状態がよくわかるので毎年気にかけているが、今年は心配な児童もいなかったのが安心した。

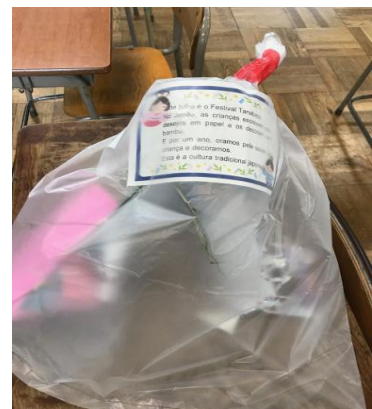
○ 児童の感想

- 願い事が叶うといいな。
- 家に帰ったら、お母さんに七夕の話をしようと思う。
- 家でみんなが見えるところに飾るね。

○ 保護者の感想

- 毎年、家に飾るのを楽しみにしている。
- 1年間、子どもが元気に暮らせています。

（記録写真）



学校名

南部中学校・岩倉中学校

実践日時

令和2年8月

実践名

高等学校訪問

1 対象

中学校担当者（加藤、服部、藤川、原田、油浅、穴井、谷）

2 実践内容

岩倉総合高校、犬山高校、犬山南高校に3つのグループに分かれた担当者が訪問した。それぞれの担当者がアポイントメントをとり、事前に質問事項を送付して当日返答を頂くという形をとった。担当者のグループは以下のとおりである。

- ・ 岩倉総合高校…加藤、藤川、油浅
- ・ 犬山高校…穴井、服部
- ・ 犬山南高校…原田、谷

3 成果（感想）

各校、特色や現状を大変わかりやすく丁寧に教えていただけた。以下に各校で伺ったことをまとめる。

岩倉総合高校

今年度、外国人特別選抜試験を受けて入学したのは3名（国籍内訳：トルコ、ブラジル、中国）。また、外国人特別選抜試験を受けず入学した生徒の中にも、外国にルーツをもつ生徒は在籍している。取得を推奨している資格は、JLPTと留学試験（大学進学を希望する場合）で、今年度は5日間の補習を行った。外国人生徒に対する学習支援は今年度外国人選抜入試を受けて入学した1年生3名のみである。内容としては、16時間の取り出し授業の実施（国語総合4、現社2、化学2、保健1コミュニケーション英語3、英語表現2、産業社会2）、選択授業として4時間の日本語（主に文法などの積み上げの授業）を実施している。また、各教科は教科担任（免許保有者）が担当し、定期試験も3名を対象とした問題で実施している。しかし、来年度も同じ手配ができるかは不明とのことだった。

犬山高校（定時制）

外国にルーツをもつ生徒への日本語教育支援は特にしていないが、卒業したいという気持ちがあれば、学校としては受け入れたいとのことだった。教科の指導では、特に保健体育や古典は、教員・生徒ともに苦戦している。

犬山南高校

外国にルーツをもつ生徒が多数在籍している。今年度は1年生では6名、2年生では17名、3年生では12名が在籍しており、国籍はブラジル、ペルー、ネパールなどが多い。外国にルーツをもつ生徒への対応は、日本語の支援が必要でないため、特にしていない。修学旅行など食事が伴う行事ではイスラム教の生徒に対してアレルギーをもつ生徒と同様の対応をしている。その他の配慮については外国にルーツをもつ生徒も学校生活に溶け込んでいるため特にしていない。

（記録写真）



学校名

五条川小学校

実践日時

令和2年8月20日

実践名

愛知県立大学生との異文化交流プロジェクト

1 対象

日本語教室取り出し指導児童 16名

2 実践内容

愛知県立大学国際学科の宮谷教授の依頼で、愛知県立大学の学生と本校の外国にルーツをもつ児童が異文化交流を行った。

○ 当日の活動

- ・ 自己紹介（家で食べる母国の料理を紹介）
- ・ アイスブレイク
- ・ 母国クイズ
- ・ 表彰

3 成果と感想

○ 成果

- ・ 母国のクイズは、親と一緒に考えたものを絵に表した。そのことがきっかけで家庭でのコミュニケーションが増えたようだ。
- ・ 6年生がリーダーとなりみんなをまとめていた。
- ・ 在籍学級では、小さな声でしか発表できない児童も、この日は大きな声で堂々と発表することができた。親は直接的にこのプロジェクトに関わったわけではないが、いろいろな面で協力してくれた。
- ・ 実践が冊子となり、本校の学級文庫に置かれる予定。また、コロナが収束したら児童は大学に招待され案内してもらえる。キャリア教育にもつながるので楽しみにしている。

○ 児童の感想

- ・ 最後に表彰してもらえて嬉しかった。
- ・ みんなをまとめるのは緊張したが、私も愛知県立大学にいけるように頑張りたい。
- ・ みんなのクイズがおもしろかった。
- ・ 大学生とクイズができて楽しかった。

（記録写真）



学校名	南部中学校	実践日時	令和2年10月
-----	-------	------	---------

実践名	令和2年度 外国人児童生徒等による多文化共生日本語スピーチコンテスト
-----	------------------------------------

1 概要

愛知県民文化局（県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室）主催による日本語スピーチコンテストに南部中学校2年生の2名が応募し、1名が本選に出場し奨励賞を受賞、1名が努力賞を受賞した。

2 スピーチ内容と経過

南部中学校2年生の奨励賞受賞した生徒Sは、小学校4年生でブラジルから来日。つらいこともあったが、好きな漫画で日本語を覚え、少しずつ日本の生活に適応した。母語のポルトガル語と得意な英語を生かして、将来は漫画などを訳して世界に広めたいという夢を持っている。そんな彼女の夢を作文に込めて、コンテスト予選を通過することができたものの、極度に人見知りで恥ずかしがり屋の彼女にとって、実際に人前でスピーチをすることはハードルが高く、出場を堅く拒否した。しかし、新型コロナウイルス拡大の影響で、今年度のスピーチコンテストは大会が開かれず、最終審査を撮影で行うことになり、少人数の撮影班と本校日本語担当のサポートがあるなら頑張る、と挑戦することになった。

撮影当日は緊張のあまりカメラを見ることもできず、原稿を読むのが精一杯ではあったが、まだおぼつかないイントネーションの日本語で懸命に話す彼女は、自ら殻を破って一步踏み出そうとする意志を感じる姿だった。

3 感想

これまで日本の生活になじむことや友達を作ることに時間がかかって、逃げたくなる気持ちを抱えてきたことも多かったSだったが、自信につながる経験を重ねることができた。12月末にブラジルに帰国してしまったが、「緊張したけど、頑張ってたよかった」と照れ笑いする彼女が、母国でも自信をもって自分だけの人生を自ら切り開いていくことを願っている。

（記録写真）



学校名

五条川小学校

実践日時

令和2年12月7日

実践名

国際理解集会 テーマ『世界の子どもたち、歯がぬけたらどうするの？』

1 対象

日本語教室取り出し指導児童 中高学年8名

2 実践内容

コロナ感染拡大予防のため、TV放送で行った。『世界の子どもたち、歯がぬけたらどうするの？』テーマとして、子供達が、歯がぬけたときの母国での風習について親にインタビューし、まとめたものを発表した。また、おもしろい風習がある国を探して発表をした。

（ブラジル・フィリピン・パキスタン・ボリビア・トルコ・キルギス・日本）

3 成果と感想

○ 成果

- ・ 母国の風習についての親へのインタビューは、親とのコミュニケーションの時間が増えたことや母国への興味がより深まった。
- ・ 児童が、読む早さや間の取り方に気を配りながら自信を持って発表している姿を観ることができた。
- ・ 緊張してうまく読めない児童に、寄り添って肩に手をおき小さな声で教えてあげている6年生の姿があり団結力を感じることができた。

○ 児童の感想

- ・ 体育館の発表とは違って、教室でみんなが集中して聞いているかと思うとすごく緊張した。
- ・ 校長先生が、すばらしかったと褒めてくださって嬉しかった。
- ・ 今度は司会をやってみたい。
- ・ 画像に合わせて話すのは難しかった。
- ・ いろいろな国の風習がおもしろかった。自分でも調べてみたいと思った。（日本人児童）

（記録写真）



学校名

岩倉東小学校

取材日時

令和3年1月28日、3月4日

取材

朝日新聞社 記者1名

1 取材の目的

学校教育の中で母語指導をおこなっている岩倉市の取組について、朝日新聞に掲載。

2 取材内容

- ・ 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の概要
- ・ 母語指導の立ち上げと目的、目標
- ・ ブラジル人講師へのインタビュー
- ・ 指導を受ける児童へのインタビュー
- ・ ダブルリミテッドの問題を抱える児童生徒への支援について など

3 感想

今年度中（3月末まで）に朝日新聞の紙面及びデジタル版で記事になると聞いている。

取材内容に偏った意図がないかどうか十分に確認し、インタビューした児童の保護者にも掲載の許可を取り、内容に配慮する必要がある。今回は小川校長先生のご指導の下、記者と十分な打ち合わせができたように感じている。

（記録写真）



〈 取材・撮影の様子 〉

学校名	岩倉南小学校	実践日時	令和3年1月19日～26日
実践名	国際理解集会		

1 対象

岩倉南小学校児童・教職員

2 実践内容

本校に在籍する外国にルーツをもつ児童を通して、日本人児童が外国の文化や生活習慣を学ぶ機会をもたせるために計画をした。自分のルーツとなる国について調べ、発表をすることで自国の文化に対する理解を深め、日本と母国の双方を敬う心を育てる機会として設定した。

掲示物の作成のため、自国の文化についてインターネットや、保護者から聞き、自らの手で作成を行った。掲示物は、フィリピン、ブラジル、トルコ、パキスタン、中国の五か国を作成した。全校集会で代表児童が、国際理解週間について説明を行った。その際に、母語で挨拶を行った。

今回は、掲示物を元にして、クイズラリー方式を採用した。掲示物の中から答えを探すことができるのでより理解を深めることができた。

3 成果

・週間中の様子

全校集会後、探検バックを手にも多くの日本人児童がクイズラリーに参加していた。その際に、外国にルーツをもつ児童が日本人児童の手を引いて探検をしていた。

・教職員の感想

- とても面白い催し物だった。日本語教室に通う児童の活躍の場となり、普段、教室では見せない一面を垣間見ることができてよかった。
- 同じ学校の児童が、他の国について知ることができたのはよかった。ぜひ、継続してほしい。発表の練習をするために、自ら日本語教室に出かける姿がとても印象的だった。
- 母語で話している姿に教室内で「すごい」と歓声が上がっていた。今回はテレビ放送だったが、直接声を届けられるといい。
- 写真があり、興味をひく掲示物だった。作成と指導は大変だったと思うが、全校児童にとってとてもよかったと思う。
- テーマを変えて毎年行ってほしい。

（記録写真）



【使用したクイズラリー用紙】



【テレビ集会の様子】



【クイズラリーをする児童】

学校名

岩倉中学校

実践日時

令和３年２月３日

実践名

外国人向け入学説明会

1 対象

岩倉中学校外国人保護者 ３名

2 実践内容

（１）学校説明

①中学校生活について

②上級学校進学について

（２）中学生からのビデオメッセージ

3 成果（感想）

来年度入学予定の外国にルーツをもつ児童の保護者を対象に、スライドを使って日本の中学校について説明を行った。また、中学１年生の生徒３名によるビデオメッセージを上映した。

今年度はすでに日本の中学校を卒業した兄弟がいる児童の保護者の方が多く、参加者が３名と少数であったが、その分一人一人に時間をかけて説明をすることができた。保護者の方からは、「中学校は小学校と成績の表し方が違うことを知った」「高校進学にかかる費用を知って驚いた」という感想があり、日本の中学校や上級学校進学について知って頂くいい機会になったのではないかと考えている。

今回の外国人向け入学説明会で、来年度入学予定生徒の保護者と事前に顔合わせをしたことで、入学式当日の保護者の方の緊張と不安を取り除くことができたのではないかと感じた。

（記録写真）



学校名

南部中学校

実践日時

令和3年2月3日

実践名

外国人向け入学説明会

1 対象

曾野小学校、東小学校の外国にルーツを持つ6年生児童とその保護者 47名

南部中学校に在籍する来日して間もない生徒とその保護者 8名

2 実践内容

①中学校についての説明

②中学生からの話

3 成果（感想）

ほとんどの児童、保護者に参加していただき、説明をすることができた。南中の説明会の後ということもあり、疲れている様子がみられた。資料に翻訳を載せるなどして、より保護者に伝わる策を考える必要がある。中学校からは、生徒が保護者に伝える責任があり、生徒もしっかりと自立する必要があることを伝えたが、伝わったかどうかは、わからないため、入学した後に、生徒たちにもう一度校則や、中学生としてしっかりとしなければならないことを伝えていきたい。

（記録写真）



学校名

岩倉東小学校

実践日時

令和3年2・3月

実践名

プレスクール

1 対象

日本語力が十分身につけていないと思われる新入学児15名

2 実践内容

入学後、早く学校に適応できるよう、学校生活に必要な基礎的事項（挨拶、ものの名前、ひらがなの読み、名前の書き方、トイレの使い方、数、色、学校の部屋の名前など）を学習した。また、日本語担当にとっては新入学児の日本語力を把握するという目的もある。

プレスクール期間内で到達した内容は記録し、入学予定の学校へ報告する。

今年はコロナウィルス感染予防対策のため、入室前に検温、手の消毒をしてもらった。保護者は送迎のみとした。また、日本語担当も最小限の人数で対応し、教室の中が密にならないようにした。

3 成果（感想）

例年とは異なる状況下での実施となったが、子供達は元気に参加してくれた。

特別な支援が必要な子供も数名いたが、他の子供達や日本語担当に励まされ、皆と一緒に活動することができた。回を重ねるごとにプレスクールの雰囲気にも慣れてきたようだった。入学予定の学校が同じ子供達もいるので、4月からも助け合っているとよいと思う。

（記録写真）

検温・消毒の様子



学校名

五条川小学校

実践日時

令和3年2月15日

実践名

愛知県立大学生との異文化交流実践の冊子完成

1 対象

日本語教室取り出し指導児童 16名

2 実践内容

夏休みに愛知県立大学の学生との異文化交流を行った内容が冊子になり児童に配られた。各学級の学級文庫に一冊ずつ置かれることになり、児童はクラスでこの冊子の紹介をした。

○ 当日の活動

- ・ 冊子の内容を確認
- ・ 各児童への教授からの手紙を読む
- ・ 朝の会を利用して、各学級で冊子の紹介

3 成果と感想

○ 成果

- ・ 各学級13学級の学級文庫と図書館に冊子を置いた。
- ・ 学級で紹介する前に、冊子を読み返し、高学年が低学年の児童に紹介の仕方を教え、学級では大きな声で堂々と発表することができた。国際理解集会の時から、高学年児童が低学年児童の世話をする様子が見られる。
- ・ 学級で発表した後、どのクラスも大きな拍手だった。児童の顔は誇らしげで自信に満ちていた。
- ・ 放課は、冊子のクイズで遊ぶ姿が各学級で見ることができた。
- ・ 実践が冊子となり、本校の学級文庫に置かれる予定。また、コロナが収束したら大学を見学させてもらえることで、キャリア教育にもつながり楽しみにしている。

○ 児童の感想

- ・ 日本語教室のみんなが本に載るなんて夢みたいです。
- ・ 教室のみんなも楽しめる本ができてよかったです。
- ・ この本は宝物だから大切にします。

（記録写真）



会場

曾野小学校

実践日時

令和3年3月4日 ロング放課

実践名

日本語教室 お楽しみ会

1 参加者

外国にルーツをもつ児童

2 目的

- ・ 外国にルーツをもつ児童の交流を図る。
- ・ 自分のルーツに誇りと自信をもつ機会をつくる。

3 内容

- ・ 例年は学期に1度「お楽しみ給食会」を行っていたのだが、今年度はコロナ対策のために給食会を取りやめ、お楽しみ会とした。
- ・ 5、6年生が司会進行役を務め、クイズ、ゲームを行った。
- ・ スライドにて「世界いろいろクイズ」と題して、児童がルーツをもつ国の世界遺産、観光地、スポーツなどをクイズ形式で紹介した。その国にルーツをもつ児童がクイズに答えたり、自分の言語であいさつを披露したりするなど、子どもの活躍の場があった。

4 成果（感想）

- ・ 子どもたちから、「お楽しみ給食会がしたい。」との声を受けての開催となった。1年生にとっては初めての、6年生にとっては最後の日本語教室でのお楽しみ会が開催できてよかった。
- ・ 子どもたちからは、「楽しかった。」「また、したい。」という感想があった。
- ・ 今回は取り出し指導をしていない児童も1名参加してくれた。こういった活動が、児童の自分のルーツに誇りと自信をもつきっかけになればと思っている。



〈ゲームの様子〉



〈集合写真〉

学校名

岩倉東小学校

実践日時

令和2年4月～令和3年1月

実践名

学校生活適応指導

1 対象

小学生12名（ブラジル4名、ベトナム2名、パキスタン4名、ネパール1名、インドネシア1名）、中学生6名（パキスタン5名、ブラジル1名）

2 実践内容

日本の学校に早く慣れることができるよう、学校生活で使用する挨拶、文字（ひらがな・カタカナ）、ものの名前、動詞、形容詞、簡単な表現、体の不調の伝え方、連絡帳の書き方、在籍学級での発表の仕方等について指導した。

3 成果（感想）

今年度は例年に比べ、様々な国籍の児童生徒が学校生活適応指導教室に通った。最初は慣れない環境に緊張し、母国とは異なるルールやマナーに戸惑いを見せていたが、少しずつ日本語が話せるようになると、次第にリラックスした表情を見せ、日本語の学習もさらに頑張るようになった。

ブラジル人講師や日本語担当は、国籍、年齢、家庭環境の違いに配慮しながら指導を進めた。また、媒介語を使えない児童・生徒もいたため、学習内容を理解させ、コミュニケーションをとるのに試行錯誤を重ねた。その結果、日本語の習得度に個人差はあるものの、学級に戻っても、早くなじむことができた様子だった。現在は全員、日本語の取り出し授業を受けながら、学級の学習や活動に参加している。担任の先生方と連携を取りながら、これからも支援を続けていきたい。

（記録写真）



令和２年度 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 実践報告（１９）			
会場	東小学校、南部中学校	実践日時	令和２年６月～令和３年１月
実践名	岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 新評価 検討会		
1 検討会の開催日時			
① 新評価検討会 全１２回			
第１回	６月２３日（火）１６時	東小学校	
第２回	７月１０日（金）１５時分	南部中学校	
第３回	８月２１日（金）１４時	南部中学校	
第４回	８月２６日（水）１５時１０分	東小学校	
第５回	９月２３日（水）１５時１０分	東小学校	
第６回	１０月１６日（金）５時１０分	東小学校	
第７回	１１月２０日（金）１５時１０分	東小学校	
第８回	１２月２２日（火）１６時	東小学校	
第９回	１２月２３日（水）１４時３０分	東小学校	
第１０回	１月８日（金）１４時１０分	東小学校	
第１１回	１月２０日（水）１５時１０分	東小学校	
第１２回	１月２９日（金）１５時１０分	東小学校	
② 新評価のための部会検討会			
日本語を３領域（会話、語彙、文法）に分け、それぞれの部会にて検討会 全５～７回			
※ 部会によって開催回数に違いあり			
2 検討内容			
① 評価シートを以下のように２枚構成とした。			
【１枚目】 「学年（児童生徒の現在の学年）の学習内容」			
・ 教科に関する日本語			
「国語に関する内容」４領域〔読む、書く、言語知識、漢字〕			
「算数／数学に関する内容」３領域〔数・計算、文章題、図形・表・グラフ等〕			
【２枚目】 「補充的（児童生徒の現在の学年より下の学年の学習）内容」			
・ 「日本語」３領域〔ことば（語彙）、文法、会話〕			
４レベル〔初級、初中級、中級、上級〕			
※ それぞれの領域・レベルの学習内容を簡潔に記載			
・ 教科に関する日本語			
「国語に関する内容」４領域〔読む、書く、言語知識、漢字〕			
「算数／数学に関する内容」３領域〔数・計算、文章題、図形・表・グラフ等〕			
・ 社会、理科に関する内容			
※ 「補充的学習内容」については、どの学年の内容を学習したかがわかるように、それぞれの教科・領域欄に学年を記載する。			
② 日本語、社会、理科をステップ（１から４）判定の評価対象から外し、学年の学習内容の「国語に関する内容」、「算数に関する内容」のみをステップ判定の対象とする。			
③ 到達度目標を８０％に設定し、児童生徒が現在どの段階にあるかがわかるようにレベルゲージを表記。また、到達度を割合に応じて、◎、○、△で表す。			
④ 評価シートは７言語（ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語ルビ版）にて作成。			

会場

愛知県三の丸庁舎

実践日時

令和３年２月１６日

実践名

令和２年度 外国人児童生徒連絡協議会 講師

1 出席者

- ・ 市町村教育委員会担当指導主事
- ・ 各教育事務所担当指導主事
- ・ 愛知県総合センター研究指導主事
- ・ 愛知県教育委員会外国人児童生徒語学相談員

2 実践内容

「日本語指導を必要とする児童生徒の実際」

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の取組

- ・ 岩倉市の実態（人口、外国人の比率、日本語指導が必要な児童生徒数、国籍など）
- ・ 「個別の指導計画 指導性との記録」より
- ・ 今後育てていきたい児童生徒像
- ・ 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の特色ある取組
- ・ 今後の方針 など

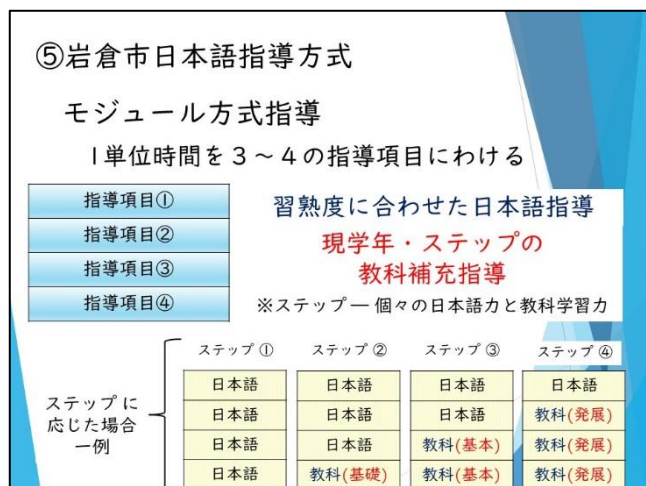
3 成果（感想）

市外の先生方に岩倉市の取組について報告することができた。

他市町の現状や取組について情報を得ることができた。



〈実践発表の様子〉



〈発表スライドの一例〉

◎ 視察・講師依頼 問い合わせ 2020年度

○ 桑名市教育委員会	視察 説明・質疑応答(岩倉東小学校)
○ 岩倉市国際交流協会	視察 説明・質疑応答(岩倉東小学校)
○ 大口町立大口南小学校 日本語担当者	視察 説明・質疑応答(岩倉東小学校)
○ 日本語教育学会	視察 説明・質疑応答(岩倉東小学校)
○ 津田塾大学 学生	質疑応答(Webメール)
○ 朝日新聞社	ポルトガル語指導教室 取材(岩倉東小学校)
○ 外国人児童生徒連絡協議会 講師依頼	実践報告(名古屋市三の丸庁舎)
○ 豊明市立唐竹小学校 日本語担当者	視察 説明・質疑応答(岩倉東小学校)